

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、5 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立両国高等学校附属中学校

1 次の文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。(＊印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

最初に日常のことと学問の関係から入ります。

野鳥の会が野鳥観察会を開いたときの話です。その話によると、あの観測会でこういうことがあったというのです。今日は①目玉商品をつくっておいた。おもしろいものが出て来た^きら言うから、鳥の名を当ててくれ、とそう言っておいて、会員にいつもどおりの観察をそれぞれさせておいた。しばらくして、いま、あそこに目玉商品である鳥がいるから、何か当ててごらん、と言うと、みな、双眼鏡^{そうがんきょう}を手に手に集まって来た。もちろんそういう会に出ていて、しかも珍鳥^{ちんちよう}の名をあててみようというぐらいの人ですから、かなり勉強した人でしょう。そういう人がたくさん出て来て、これは何とか鳥だ、いや、何とか鳥だと、いろいろ名前をあげた。それが全部ちがう。

結局のことを言うと、正解はスズメなのです。つまり、人が悪いんですが、その指導員は、目玉商品と言って珍鳥^{*せうき}を想起^{せうき}させておいて、正解に、スズメをおいた。それで野鳥観測に相当自信をもった②ベテランは――まさかスズメと思わないから――スズメに似てスズメでない珍鳥をそれぞれ思いうかべて、それをあげた。

この話は、大事な教訓をふくんでいるように思います。

私^{わたくし}たちは、スズメにとりかこまれて住んでいて、ふだん見付けていながら、実はよく見ていない。慣^なれで見ているから、よく見ていない、ということにさえ気がつかない。だから、とんでもない状況^{じきょう}の中^{なか}で、素人^{しらひ}にはスズメをスズメだと言い切る^いことができない。

③他方、素人^{*}でない観測^{*}ずれをしたベテランもまた、珍鳥に心をうばわれ、眼^めをうばわれて、スズメをスズメと言い当てられない。

スズメをも、珍鳥を見るのと同じように正確に――学問的にいろいろなチェック・ポイントにそくして――見ていなければならぬわけだ。

その人は「キミたちはスズメも知らずにこんな難^{むずか}しい鳥の名前ばかり覚えたってしょうがないではないか。それでは野鳥の会ではなくて、珍鳥の会になってしまふ。スズメだって野鳥だろう。原点にもどれ。」という痛棒^{*つうぼう}を、まことに上手^{じょうず}に、ユーモアをふくんであたえた。感

心^{*}しましたが、他人事^{*}ではありませんね。珍鳥にこだわった学問の眼で見ると、スズメがそれに似た特ちょうをもつ珍鳥に見えてきて、スズメが見えない。といって、素人の眼では、やはりスズメをスズメと言^いい当てることはできない。下手^{へた}をすると珍鳥の会になりかねないよ^うなチェック・ポイントを勉強^{*}し、駆使^{*}して、はじめてスズメを見るこ^とができるはずだ。つまり、学問の眼を、日常見聞きする現実に

生かす、これが重要です。

(内田義彦「生きること 学ぶこと」による)

〔注〕 想起——思い起こすこと。

見付けて——見慣れて。

観測ずれ——観察したり測定したりすることに慣れきってしまっていること。

痛棒——手厳しくしかることのとえ。

ユーモア——おもしろみ。

駆使——思いのままに使いこなすこと。

(次のページへ続きます。)

文章2

④ 富士山は二十分も見ているとあきる、と言う人がいる。 ⑤ 富士山

が美しいって言っているようでは日本人はだめだって言う人もいる。

そうかもしれない。見てあきれば、あきると言えるでしょう。でも、

⑥ ほんとうに美しいと思えるほど、見たことがないのではないかしら。

私わたくしみたいにならば、そばで毎日のようにながめていると、こんなに富士

山ってすごいのか、と思う。ぜんぜんいままで見たことのない富士山を、

いつも見る。赤富士になる前の、しづじらと夜が明けるか明けなかつ

ていうときの、なんともいいようなない色、かたち。太陽が上がるにつ

れて、真っ赤に染そまっていくときの、一刻一刻と変わっていくその美

しさといったら、この世のものとは思えない。

夜、月の光に照らされる真っ白の富士山は、神々こうこうしくて、きれいも

美しいも、言葉なんかありませんね。夜中に起きて、雪が降ふっている中、

富士山の中腹ちゅうふくぐらいから、雪けむりが夜の天に巻まき返かえっているさまを

見たときはおどろきました。ほんとうにすごかった。こんなすさまじい

景色があるのかと、立ちすくみました。

三段さんだんに、色が染め分けられている富士山を見たことがある。その三段の

色のきれいなことといったら、上は朱色しゆいろ、その次はむらさき、下は緑。そ

れは見事な三段だった。人に話しても、私の知るかぎり、三段に染め分け

られた富士山を見たことのある人はいない。あれは、忍野村しののむらのかやぶき屋

根の家ねのいえにいたときで、夕方でした。見ることができて、私は運うんがよかった。

富士山は、毎回、見るたびにおどろきがありますし、いつ見ても美

しいんです。完まるべきな美しいかたちです。あきないです。どうしてこん

な美しい山を、自然しぜんというものはつくるんだらうと、不思議ふしぎな気がしま

すね。

ヨーロッパやアジアなどにも、標高ひょうこうの高い山はたくさんあるけど、

どの山も続いていて連山れんざんです。その中に一つ高いみねがあったりします

けど。富士山は一つだけの、単山たんざんなんです。そういう不思議な山だから、

二つとない、不二ふじ、と万葉時代まんようしだいの人がつけたんですね。

不尽ふじん、不死ふじとも表現ひょうげんされていましたが、私は、富士ふじというのは、不

二ふにだなど。二つとないなど。だから、「不二」という字あざなをあてるのがい

ちばんいいような気がしますね。それにしても『万葉集まんようしゅう』の歌人は、

奈良ならのあたりからどのようにして、あの時代、富士山を知り、見たのか。

旅たびは容易やすなことじゃないですよ。

富士山の頂ちようじやう上の雪は絶たえることがない。六月ろくがつの十五日じゅうごふにちに消けえたと

思おもったら、その夜、降ふったという歌が『万葉集』にありますね。

「富士の嶺ねに降り置く雪は六月みなつきの十五日もに消けぬればその夜降よりけり」

（高橋虫麻呂たかはしむしまろ）と。よくもまあ、書き残のこしてくれたと思おもって。燃もゆる火、

という歌もありますから、活火山かつふしだったことがわかる。

「燃もゆる火を雪ゆきもち消けち降ふる雪ゆきを火ひもち消けちつ」（高橋虫麻呂）。

〔問題3〕

富士山は二十分も見ているとあきる、と言う人^④や^⑤富士山が美しいって言っているようでは日本人はだめだって言う人^⑤に対して、

筆者は^⑥ほんとうに美しいと思えるほど、見たことがないのではないかしら^⑥と感じています。筆者はそのように言う人にどのような言葉をかけると考えますか。 **文章2** の内容を、いまえて書きなさい。

〔問題4〕

冷たさも熱さも^⑦とありますが、「冷たさ」「熱さ」にあたる言葉を、それぞれ四字以内で、和歌の説明部分から具体的にぬき出しなさい。

〔問題5〕

文章1 と **文章2** はどちらも「もの見方」について書かれています。これらの文章を読んで、あなたは今後どのような「もの見方」を

していきたいですか。次の二つの条件を満たしながら、三百五十字以上、四百字以内で書きなさい。

条件

1. 二つの文章に書かれている「もの見方」について、それぞれの筆者の考えをまとめること。
2. あなたがこれまでにやってきたことと、これからやりたいことをそれぞれ具体例として挙げること。

記入上の注意

- 題名、名前は書かずに一行目から書き始めること。
- 書き出しや段落をかえたときの空らんや、や。や。などもそれぞれ一字に数えること。
- 段落の最初は、一字下げて書くこと。